

事前評価報告書

事業名: おき初!おかあさん目線の雇用創出事業

実行団体: テラまちコネクト

報告者: テラまちコネクト

資金分配団体: 公益財団法人 東近江三方よし基金

実施時期: 2021年3月～2023年2月

対象地域: 富山県南砺市

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

概要

事業概要
子育て中の女性が楽しく、孤独を感じることなく地域とつながりながら働ける場所をつくり、働きながら井波のまちの魅力や歴史を学び、多様な視点と多様な手段で情報を発信し、孤立する人を減らす。具体的には当団体が制作しているおみやげの製造と販売を担う。ジョブトレーニングや情報発信に関する学習機会を提供し、短時間でも柔軟に働ける場を創出する。またおみやげづくりや販売の拠点として瑞泉寺山門の外にある売店を賃貸契約させていただき、リノベーションに取り組む。売店は商業的な機能だけでなく、地域の人たちが気軽に立ち寄りそこで働く女性たちと地域の人たちが交流する集いの場とする。瑞泉寺は井波の観光の拠点の1つであるため、これらの取り組みを広く発信しファンを増やす。そのため子育て中の女性の視点でSNS等を活用した情報発信に取り組む。SNSの特性、写真の撮り方、顧客対応、商品発送、アフタフォロー等を学ぶ実践的なプログラムをつくり、女性の個性と特技を活かした働く場を創出する。”
中長期アウトカム
事業が終了してから5年以内には、おかあさんだけが子育てに関わるのではなく、地域みんなが子育てに関わるができるようになっていく。瑞泉寺前の売店を中心とした地域みんながつながる拠点が、そこでおかあさんたちがいきいきと働いていたり、地域の中でおかあさんたちが新たな働き方（企業や就職）にチャレンジしている。”
短期アウトカム
①当団体がヒアリングや様々なシートを作成することで、おかあさんたち一人一人の状態に合わせて得意なこと、好きなことが発見できるしくみができていて、結果、おかあさんたち自身が自分の得意なこと、好きなことが仕事につながる職場だと理解している。
②当団体がおかあさんたちに実施するジョブトレーニングによって、おかあさんたちが主体的に動き働けるような環境としくみを整えることで、おかあさんたち自身が仕事に誇りや愛着を持ち、自信をもって日々スキルアップに取り組んでいる。
③おみやげづくりや販売など、企画段階からおかあさんたちと一緒に進める、新たなメンバーが入ってきてもおかあさんたち同士で事業継続できるように、マニュアルづくりや地域のネットワークづくりをおかあさんたちと一緒に進めることで、おかあさんたちが新たな働き方（起業や就業）にチャレンジしている。
④おかあさんたちが主体となって、事業の内容や地域の魅力を発信し、地域の中で事業の認知度があることで、おかあさんたちの南砺市や井波に対する地域愛が高まっている。
⑤おかあさんたちが地域の人たちと一緒に働く場所のリノベーションやワークショップに参加することで、おかあさんたちが仲間を呼んでくるようになり、自分の家のように働く場所に対して愛着を持っている。

事業の背景

(1) 社会課題
女性の継続就業率が上昇する一方で、第一子出産を機に離職する女性の割合は依然として高く、仕事と子育ての両立への負担が女性の就業継続の大きな障壁となっている。正規職員の継続就業率は産休や育休の取得を奨励することで上昇しているが、非正規職員の継続就業にはなかなか結びつかない。また育児中の女性で就業を希望している者は多いものの、現状は求職活動をしている者が少ないことは課題である。”
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
南砺市では子育て支援に積極的に取り組み、育児と仕事の両立を応援する事業者を「なんと!やさしい子育て応援企業」として認定する事業、働き方改革に取り組む「イクボス宣言事業所」等の事業を進めているものの、企業側の努力だけではおかあさんたちが安心して働きやすい環境をつくるのは難しい。対話を通じておかあさん目線で子育てと仕事を両立できるしくみや環境のモデルをつくっていくことが必要である。”

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部		テラまちコネクト代表
		テラまちコネクト副代表
		テラまちコネクト生産部長
		テラまちコネクト会計担当
外部		

評価実施概要

評価実施概要

評価①「南砺市における子育て中のお母さんたちを取り巻く現状の課題を十分に把握しているか」

実施日：10月～

実施方法：南砺市子ども課の協力をいただき、子育て支援センターなどへのアンケート依頼の掲示、口コミによるオンラインアンケートへの協力依頼の実施

評価②「最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができているか」

実施日：3/18, 4/12, 4/22, 5/30, 6/9, 6/9, 6/21, 8/9, 8/27, 9/10, 10/18,

実施方法：資金分配団体との打ち合わせ

評価③「目標・アウトカムや事業設計の内容の達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか」

実施日：3/18, 4/15, 4/19, 5/28, 6/9, 8/18, 9/22, 9/30, 10/20

実施方法：プロジェクトに関わるメンバー及び関係者との打ち合わせ

自己評価の総括

新型コロナウイルス感染予防対策のため、南砺市の子育て支援センターが開所されず、当初のスケジュール通りにおかあさんたちの声を聞くアンケートが実施できなかった。しかし、テラまちコネクトとしての活動の認知度を上げるために、瑞泉寺の協力のもと7月の太子伝会でのお土産の販売や、おかあさんたちの働く場所となる「テラまち雑貨店」の改修を地域の人たちと参加型で実施できたことで、複数の新聞社に取り上げてもらうことができた。また、アンケート実施までの時間的な猶予ができたことで、メンバーでもある子育て中のおかあさんたちから意見を聞きながら、アンケートを完成させることができた。現在は、オンラインで回答できるアンケートを口コミで実施している。9/30、10/1には1回目の説明会を開催し、4名のおかあさんたちが参加してくれ、3名が働く意向を示してくれた。しかし、未就園児を抱えたおかあさんたちであることから、子供の体調不良などで予定通り働くことが難しい状況も起きている。少しずつ無理のない範囲で、おかあさんたちの自己有用感を高められるように働く機会をつくっていくこと、また人員を増やすことも視野に入れながら、10月中に2回目の説明会を開催する予定である。今後はおかあさんたちのジョブトレーニングを通じて、「テラまち雑貨店」のおかあさんたちによる運営の本格的な始動を目指していく。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	概ね高い	<p>評価①「南砺市における子育て中のお母さんたちを取り巻く現状の課題を十分に把握しているか」</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 現在、22名のおかあさんがオンラインでのアンケートに回答してくれている。育児中に、社会とつながりにくいと感じたことはあるかという質問に対しては、50%の方が回答している。「仕事をしていないことで、仕事をしているママさんと自分を比べて、怠けているような気がして、怠惰な自分をせめてしまう時もありました」や「子供達が体調を崩したりして会社で休む事が増えたりなどして、会社から迷惑がられたりして理解を得る事ができなかった」などおかあさんたちのリアルな声をきくことができた。さらに、子育てをしながら仕事することに不安を感じたり、困っていることはあるかという質問に対しては、80%以上の方が回答している。「イクボス宣言している割に、イベントや活動に当然のように駆り出される」や「どうしても熱を出して休みがちになるため、職場で意見がいつらかったり、妥協して仕事をしがちになること。やりがいのある仕事ができない」など働きづらさを感じているおかあさんたちが多いことがわかった。</p> <p>【結論（考察）】 サンプル数はまだまだ少ないものの、事業計画に記載した課題と現在の状況がおおむね一致していることが考えられる。引き続き、おかあたちの声を集めていきたい。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	<p>評価①「南砺市における子育て中のお母さんたちを取り巻く現状の課題を十分に把握しているか」</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 本事業では、おかあさんたちの得意なことを活かした仕事づくり、子育て中でも地域とつながることのできる機会をつくることを目指している。子育て中に社会とのつながりづらさや仕事のしづらさを感じている層が一定数存在していることから、特にコロナ禍においては事業対象として妥当であると考えられる。</p> <p>【結論（考察）】 本事業における直接的対象グループの井波地区、南砺市内に暮らす子育て中の女性で働く場がない人たちにとって、子ども同伴で短時間で働ける場づくりはアンケートの結果からも必要であるが見えてきている。引き続き調査を継続しながら裏付けをとっていきたい。また、間接的対象グループである井波地区や南砺市に暮らし、今は働いていないが働く場を求めている女性や全国の子育て中の女性に向けては、この取組を広く発信して行きたいと考えている。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性		<p>評価②「最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができていないか」</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 事業開始前に、資金分配団体とも協議しながらロジックモデルを作成し目標を明確化した。おかあさんたちの雇用が10月末からスタートになり、中間的なアウトカムを達成するためのシート等での検証がこれからとなっている。でき次第、初期値を検証していきたい。</p>
	④事業計画の妥当性	概ね高い	<p>評価③「目標・アウトカムや事業設計の内容の達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか」</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】 コロナ禍により、事業の進捗が若干遅れているものの、おかあさんたちの働く場所となる「テラまち雑貨店」の改修は予定通り進めることができたことから、特に事業の見直しの必要はないと考えられる。進捗状況が測定できる指標の設定については、初期値が測定でき次第、資金分配団体とも相談しながら進めていきたい。</p>

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業では、おかあさんだけが子育てに関わるのではなく、地域みんなが子育てに関わることができるようになっていく。瑞泉寺前の売店を中心とした地域みんながつながる拠点があり、そこでおかあさんたちがいきいきと働いたり、地域の中でおかあさんたちが新たな働き方（起業や就職）にチャレンジできるような状況になっていることを目指している。そのためには、まずおかあさんたちが安心して働ける場をつくり、対話の中から働きやすい環境を作っていくことが重要であると考えている。雇用が決まりこれから対話の機会をつくっていくことから、仕事の内容ややりがいづくり、地域との連携などをおかあさんたちと一緒に考えていきたい。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

おかあさんたちの雇用時期が当初の予定よりも少し遅れていることから、「テラまち雑貨店」が地域の人たちにも認知してもらい、活動の場として使ってもらえる場となるよう、お母さんたちの働き方、スケジュールなどを調整しながらできるだけ開けていきたいと考えている。

添付資料